

検診で肺に異常な影があると言われたら？

こんにちは。

突然ですが、去年は検診をお受けになりましたか？

検診項目のなかに胸部レントゲン検査が含まれている場合もありますが、皆さまの中には肺に異常な影が写っているという結果が届き驚かれた方もいらっしゃるかと思います。

もちろんレントゲンで異常を指摘されたとしても、必ずしも肺がんであるというわけではありません。レントゲンを読影する医師は見落としを防ぐために、古い炎症の跡や、ちょっとした左右差を見逃さないようにしているためです。

では統計的にどのくらいの方が検診で肺がんと診断されているのでしょうか。検診で10,000人の方にレントゲン撮影を行った場合、おおよそ100~200人(1~2%)の方が「肺に何らかの異常な影がある」と指摘されています。その中で実際に肺がんと診断された方は、平成28年のデータでは全国平均で5人(0.05%)だったそうです。すなわち胸部レントゲン検査で要精査とされた方の2.5~5%が実際に肺がんであったということになります。

このように肺に何らかの影があるという結果が返ってきたとしても、本当に肺がんである可能性は決して高くはありませんが、だからと言ってそのままにははいけません。必ずかかりつけの医院や近くの医療機関に相談してください。

胸部レントゲンは不得意な部分、例えば体の真ん中に近い部分は背骨や心臓などがあり病気があっても描出されないことがあります。この部位には喫煙が原因となる肺扁平上皮がんというタイプの肺がんが好発しますので、タバコを吸われる方はレントゲンのみではなく喀痰(かくたん)検査も行います。過去のレントゲンとの比較で病気が見つかることも少なくありませんので、是非とも検診は毎年受けてください。また検診の時期以外でも何か気になる症状があれば、我慢せずに最寄りの医院を受診してください。

【呼吸器外科診療部長 田嶋 公平】

